

桜の開花情報が聞こえてきました。咲き始めた一輪の花にしばし心が和みます。現在会員登録数 4,654 人さま。次号は 4 月 21 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

《6》富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

【1】お知らせ

● 日産 童話と絵本のグランプリ 特別講演「物語を書くコツ」

昨年3月開催の「第41回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式内で実施した、吉橋通夫さん（児童文学作家、本グランプリ審査員）による特別講演を無料公開しています。3月31日（火）まで。ぜひご覧ください。

詳細は↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#4ltokubetsukoen](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#4ltokubetsukoen)

[YouTube] <https://youtu.be/XekGjWmtVBA>

● «ご寄付をお願いします» 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

● YouTube版「本の海大冒険」 <https://www.youtube.com/@iicloll196>

※公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/ml\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html)

● Instagram 随時更新 [https://www.instagram.com/iiclo\\_official/](https://www.instagram.com/iiclo_official/)

● X（旧 Twitter）毎日更新 [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『心の遠きところ はじめての坪田譲治』 坪田譲治/作 山根知子/編 及川賢治/装画 小峰書店 2026年3月 対象年齢：小学校高学年以上

\* 今回のゲストは当財団理事の宮川健郎さん（T）です。

概要：日本を代表する童話作家のひとり坪田譲治（1890-1982）の、母親の存在を何度も確認するよちよち歩きの正太を描いた「母ちゃん」、癩癩持ちの父が母に食事の支度をうながすために家の近くの橋で咳払いをして知らせた「エヘンの橋」、おじいさんの経験を語った「河童の話」、善太と三平の兄弟の会話で展開する「善太と三平」と「魔法」、山の中で見つけた大きくおいしいビワの実の話「ビワの実」、幼い頃おかあさんがぶどうをとりについたまま生き別れになってしまったこぎつねを描いた「きつねとぶどう」、級友にけしかけられてけんかをするようになったタロウとジロウが、その後仲良くなるまでを描いた「けんかタロウとけんかジロウ」という8編の短編と、中編で映画化もされた父親の会社での浮き沈みを子どもの視点から見た「風の中の子供」を収録した作品集。

Y：奥付に編集協力としてお名前があります。

T：岡山市が主催する「坪田譲治文学賞」40周年記念で出版されることになった本です。相談があって、本の出版のお手伝いをしたり、オンラインの編集会議に出席したりしました。

Y：「心の遠きところ」って魅力的なタイトルですがこれはどこから来たことばですか。

T：坪田譲治先生は、「心の遠きところ花静なる田園あり」という言葉が好きで、よく色紙にも書かれていました。僕の家にも飾ってあります。故郷を理想郷、桃源郷と感じる気持ちが表れた言葉です。

Y：掲載されている作品を順々に読んでいくと、母親と離れがたい幼い子どもが主人公の「母ちゃん」から、父親が会社の紛争で警察に連行されるのを見る小学1年と5年の兄弟を描いた「風の中の子供」まで、作品によって名前はちがうけれど、子どもたちが成長していくさまが読み取れます。

T：作品の発表順ではないこの構成に編者の山根知子さんの工夫があると思います。「編者解説」は、作品を解説しながら、坪田先生の人生と故郷岡山のことをわかりやすく紹介しています。先生の随筆などの引用も的確で、解説を読むことによって、作品世界をより深く知ることができますよね。

Y：どの作品が好きですか。

T：「母ちゃん」が好きです。「この現実ほんとうに現実なのか」と思う子どもの存在の不安が巧みに描かれていて、坪田先生の童話の代表作である「魔法」につながります。善太と三平の立場から社会的な事件を描き切った小説「風の中の子供」もすばらしいと思います。

Y：どの作品も、作者自身を思わせる大人の語り手の語りで書かれていますが、味わい豊かな日本語で、あくまで子どもの視点に寄り添っている、独特な文体になっていると思いました。そして、子ども同士の会話は特にいきいきと感じられます。

T：及川賢治さんによる表紙の絵も楽しんでほしいです。

Y：黄色い色が印象的です。1935年に出版された『坪田譲治童話集 魔法』（健文社）の黄色とも響き合うと思いました（装幀：深澤省三）。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第126回「童話集『注文の多い料理店』新刊案内（広告文）」

童話観にみる自信

童話の理論書はとのお葉書ですが、何分いまだ病中で力を入れた仕事六ヶ

しく、それに理論はどうもそのときりのもので、強ひて、書けばしばらくそれに縛られなければならないやうな気がしますので、今の所ははなはだ自信ありません。

これは、宮沢賢治が親交のあった画家・高橋忠弥に宛てた手紙の一節です（昭和8年6月30日付、書簡〔476〕）。このように述べ、賢治は自身の童話理論をまとめることはありませんでした。しかし一方、作品としてではなく、自らの童話観を書いている文章がいくつかあります。童話集『イーハトヴ童話 注文の多い料理店』出版（大正13年）に際して作られた「新刊案内」もその一つです。

イーハトヴは一つの地名である。しいて、その地点を求むるならば、それは、大小クラウドたちの耕していた、野原や、少女アリスがたどった鏡の国と同じ世界の中、テパーンタール砂漠のはるかな北東、イヴン王国の遠い東と考えられる。

有名なこの書き出しには、自らの童話を「イーハトヴ」と呼び、アンデルセンやルイス・キャロル、タゴール、トルストイの世界とのつながりが語られています。そして、「じつにこれは著者の心象中に、このような状景をもって実在したドリームランドとしての日本岩手県である。」と続けられます。

「新刊案内」ですから、すなわち「広告文」です。しかし、これは単なる広告に留まるものではないようです。「この童話集の一例はじつに作者の心象スケッチ（ここまで原文には○の圈点あり）の一部である」「これらはけっして偽でも仮（原文ママ）空でも窃盗でもない。多少の再度の内省と分析とはあっても、たしかにこのとおりその時心象の中に現われたものである」と書き、短い文章のなかに「心象」という語を3度も繰り返して自らの創作手法「心象スケッチ」を強調します。そして、心象に確かに現われた世界は「どんなに馬鹿げている、難解でも必ず心の深部において万人の共通」であると記します。賢治が「童話」というジャンルを借りた理由も、一つはそこに存在するのかもしれない。

この新刊案内は、当時無名であった賢治が、第一童話集の刊行に合わせて自らの創作の意味や特色をわかりやすく語ったものです。その意味では、文壇および読者への挑戦状のようでもあります。晩年、童話の理論書には自信がないとした賢治ですが、自らの創作、とりわけ「心象スケッチ」は自らの作品を表現するものとして揺るぎない自信と信念を持っていたことがうかがえます。（ペ吉）

（本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のこぼれ 81

\*\*\*\*\*

「そうらあ、来た、来た。」

善太がそれを見て、大きな声を出しました。

「ね、これ、今の坊さんなんだよ。もう蝶になって飛んで来ちゃった。早いもんだ。」

これで三平も少し不思議になって来ました。ほんとに、このあげはの蝶と、今の坊さんと、どこか似たところがあるようです。そこで聞いて見ました。

「ほんとう、兄ちゃん。ほんとうに魔法使ったの。」

「そうさあ、大魔法を使ったんだ。」

「ふうん、いつ使ったの。」

「今さ。」

「今って、なにもしなかったじゃあないの。」

「それがしたのさ。三平ちゃんなんかに分かんないようにやったんだ。だから魔法なんだ。」

「ふうん、そうかねえ。」

三平はすっかり感心してしまいました。

(「魔法」 『心の遠きところ はじめての坪田譲治』 坪田譲治/作 山根知子/編 小峰書店 2026年3月 p.47)

坪田譲治の兄弟を描いた「善太三平」ものの一作です。「兄ちゃん、おやつ。」と三平が庭へ駆けこんでいくと、善太は「魔法を使っているところ」だと言います。そして、三平に蝶が来る魔法を使っていたら、三平が「僕らだっただけ出来らあ。」と言いき、善太は三平にはできないと言いきけんかになります。善太が三平を蝶にするといい、三平がそれをおもしろがったところから、善太は三平に人を違う生き物に変身させた証拠を見せなければいけなくなり、引用の場面になります。

二人の会話がリズムカルです。三平がどんどん善太のペースに巻き込まれ、善太がそれを知って三平を信じさせるために必死になる様子がとてもユーモラスです。このあと、善太は通る人ごとに魔法を使って虫やミミズなどに変身させ、二人は縁側に行列をつくらせておやつを食べ食べ遊びます。空想の世界と現実の世界を行き来しながら、それらを分けずに同じ地平に感じて遊んでいるちょうどこの年齢の子どもの様子が伝わります。二人は、縁側という家と庭の間(はざま)の空間で、子どもだけの世界だからこそ、時計では計れない時間を過ごしています。

『心の遠きところ』の「編者解説」でも引用されていますが、四十歳になって善太と三平ばかりを書くようになった坪田は、「その頃、この二人は、私の心中、作品の世界では、林の中のコンモリ茂った太い木の下におりました。木を廻っておいかけ合っているようでした。そういうイメージが、いつも頭の中にあったものですから、その善太と三平を一つの事件の中、あるいは環境の中に入れると、すぐに二人は活躍をはじめました。それを舞台を見るようにして描写して行くのが、その頃の私の創作だったように思います。」(「あとがき」『坪田譲治全集』第十巻 p.352)と書いています。この作品でも善太と三平が走ったり、立ち止まって考えたり、対話したりする様子がいきいきと伝わります。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

刈谷市美術館で3月22日まで開催されている「三浦太郎展 絵本とタブロー」に行ってきました。三浦太郎は、1968年生まれで、愛知県西尾の出身です。2001年を皮きりに、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展に6回も入選し、審査員も務めました。また、2004年にヨーロッパで絵本作家としてデビューし、『くつついた』(こぐま社 2005年)、『ちいさなおうさま』(偕成社 2010年)、『みち』(あすなろ書房 2022年)など数多くの絵本を出版しています。

刈谷市美術館のホームページによると、「本展は、2022年に板橋区立美術館で開催された初の大規模な個展以降に制作された作品を加え、三浦太郎の絵本とタブローの仕事を存分に紹介するものです。」とあり、2022年からの発展ぶりも見る事ができます。

全体の構成は、「初期作品」「ラ・ジョワ・ドウ・リール出版からの最初の絵本」「メディアバカ出版との仕事」「コッライニ出版との仕事」「ワークマンステンスル」シリーズ「赤ちゃん絵本の三浦太郎」「子どもの成長と物語の変化」「『ちいさなおうさま』三部作」「こどもアイデンティティ」シリーズ」「風景スケッチと『みち』」「新作『ゆき』」となっていました。

ポローニャ絵本原画展で見覚えのあった「いつもとちがう日」は、機関車が走る線路が交差していたり、ふとんの上で子どもがスキーをしていたり、空想豊かな世界がカラフルに展開しており、三浦太郎ワールドの原点を見たように感じました。

また、『ぼうしかぶって』（童心社 2020年）や『ゴリラのおとうちゃん』（こぐま社 2015年）の展示のキャプションには、パソコンで絵を描いてプリントアウトして、それを切って紙に貼り、またパソコンに読み込むという制作過程が説明されており、デジタルとアナログを往復して作品が作られていることがとても興味深く感じました。

何ととっても印象的だったのが、『ゆき』の原画でした。白い空間に、緑があった黒が美しく、背景に雪が降り積もっている様子が想像でき、奥行きが感じられました。お茶席には、『ゆき』をイメージした襖絵と掛軸が飾られており、部屋全体が雪の世界のようで、雪のようなお饅頭と緑のお茶を楽しみました。（K）

刈谷市美術館 <https://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

\*\*\*\*\*  
《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第28回  
\*\*\*\*\*  
第6章 鳥越信先生  
その1 三つの児童文学史展（下）

1979（昭和54）年11月、鳥越信先生（1929～2013年）が監修した児童文学史展のお手伝いで、鳥越先生といっしょに沖縄に行きました。私は、1年浪人して入学した大学院の1年次で、24歳でした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

<本編はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

\*\*\*\*\*  
《6》 富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025  
\*\*\*\*\*  
STORY COMPE. 第2回の投票受付中！  
キーワード「パン」「ワニ」を使った応募作品（2月2日締切）の中から選ばれた5作品のうち、いちばんおもしろいと思った作品に投票してください。  
◆こちらに5作品を公開しています。↓  
[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html#186\\_5sakuhin](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html#186_5sakuhin)  
◆投票締め切り：3月31日（火）  
投票はこちらから→ <https://forms.gle/XS9nkYTKjPRuVZEg9>

みなさんの投票を集計し、上位2作品を次号のメールマガジンで発表します。  
同じ条件で書いた、富安陽子理事長の作品も公開します。お楽しみに！！  
<詳細はこちらをご覧ください>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html)

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介  
■ ----- ■

●「チェコ絵本の父 ヨゼフ・ラダ展」

場所：市立伊丹ミュージアム（兵庫県伊丹市）

会期：4月10日（金）～6月7日（日）10：00～18：00 ※月曜休館、有料

主催：市立伊丹ミュージアム

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓ ↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント  
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『心の遠きところ』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ 応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は4月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

児童自立支援施設の卒業式に行ってきました。卒業生の言葉では、施設に入った時はすべての大人が嫌いだったが、寮長・寮母さんに自分のこれまでを語ったら一緒に泣いてくれ、大人に対する見方が大きく変わったということが語られました。卒業生たちの未来に幸あれと精いっぱいの手拍子で見送りました。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp